０３／１０／１９　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：希望をもって生きる　５
聖書箇所：ペテロの手紙第１　３章２２－２２節

私たちはこのＩ ペテロ３：１３から「希望をもって生きる」ことを学んできました。希望をもち続けるカギは、神に忠実であり続けることです。ダビデは詩篇の中でこのように言っています。
１６：８，９「私はいつも、私の前に主を置いた。主が私の右におられるので、私はゆるぐことがない。それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでいる。私の身もまた安らかに住まおう。」と、ペテロが教えているのとまったく同じことを言っています。ダビデもペテロも主の教えに忠実であったからです。
私たちの主はどんなに偉大なお方か。彼は十字架において不当な酷い苦しみ、辛い迫害を経験されました。しかし、それは私たち罪人の身代わりとして受けてくださったものであり、私たちに罪の赦しをもたらすためでした。十字架で死なれたイエスは、その後敢然とその死よりよみがえり、罪、悪霊、サタン、地獄、死に対する完全な勝利を宣言されました。
苦しみから勝利へ。このイエスを覚えるとき、私たちにも希望が湧き出てきます。主に対して忠実であろうとするときに経験する苦しみは、必ず祝福へと変えられるからです。
ノアもまた、主に対して忠実であり続けました。１２０年間も箱舟を造り続け、罪を悔い改めて赦しをいただかなければ必ずさばかれるという神のメッセージを語り続けました。当然、人々からはバカにされました。しかし、その結果はどうだったでしょう？神の言われた通りでした。神のみことばに従う以外に祝福を得る方法はないのです。それこそが希望をもたらすのです。

続いてペテロは迫害のもとにあるキリスト者を励まして行きます。続いて学んで行きましょう。
２１節でペテロは「そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。」と言います。２０節の洪水による神のさばきという出来事からバプテスマについての教えを始めています。ペテロはこのノアの家族が「水を通って救われた」（２０節）出来事は、バプテスマの型、すなわち、象徴であると言うのです。丁度、旧約時代の罪のための「いけにえ」がイエスの型、イエスを象徴していたように、それと同じことです。

Ａ．ノアの洪水とバプテスマ　２１節
バプテスマについて
日本では「洗礼」と呼ばれています。しかも、これは水と関係しています。水の中に全身浸かる行為を思い浮かべます。「今あなたがたを救うバプテスマ」というペテロのことばを聞くと、あの水に浸かる行為によって救いを得るのだと考え勝ちです。ペテロはそのようなことを教えているのでしょうか？
Ｉ．ペテロの教え
この文脈にはバプテスマに関する二つの説明が加えられています。
● 「肉体の汚れを取り除くものではない」＝否定的
● 「正しい良心の神への誓いである」＝肯定的
１）「肉体の汚れを取り除くものではない」＝否定的説明
「取り除く」とは、水で洗って泥を落とすという意味ではありません。ペテロはこのことばを、II ペテロ１：１４で「それは、私たちの主イエス・キリストも、私にはっきりお示しになったとおり、私がこの幕屋を脱ぎ捨てるのが間近に迫っているのを知っているからです。」と教えています。この「幕屋を脱ぎ捨てる」（肉体の死）と同じことばで、「横に置く、脱ぎ捨てる」という意味です。
バプテスマは肉の汚れを取り除くことはできません。すなわち、肉の汚れを脱ぎ捨てるとか、その汚れから自らを完全に分離することはできないのです。それなら、なおさら心の汚れを取り除くこと、清めることはもっと不可能です。ということは、バプテスマは人をその罪から救うことはできないのです。
エペソ２：８－９を見ましょう。「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行ないによるのではありません。だれも誇ることのないためです。」と、救いは行ないによるのではないことをパウロも教えています。
では、「今あなたを救うバプテスマ」とはどういう意味でしょう？　バプテスマには２種類あるのです。
（１）水のバプテスマ＝水に浸かるバプテスマ
（２） 聖霊のバプテスマ＝Ｉ コリント１２：１３「なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、

奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。」
イエス・キリストを信じたときに受けるのがこの聖霊のバプテスマです。救いをいただいた者は例外なく、この聖霊のバプテスマを受けます。言い換えれば、聖霊のバプテスマを受けた人だけが本当のクリスチャンなのです。これがキリストに属する者にしてくださる神の方法です。

●では、どうしてイエスだけが「救いを与える」ことができるのでしょう？
２１節の後半に「…イエス・キリストの復活によるのです。」とあります。人の罪を完全に赦すことができるのはイエスだけです。それはイエスが死よりよみがえられた唯一のお方だからです。
　イエス・キリストの復活が示すことは、
（１）　イエスが真の神であること
　ローマ１：４「聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。」
（２）　イエスが完全な救い主であること
　ローマ４：２５「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」

　イエスが十字架で死んだあと、もしよみがえらなかったとすれば、彼はいのちの元である神ではないことがはっきりします。神はすべてのものにいのちを与えられたお方です。また、それはイエスの身代わりの死が罪の赦しを人類にもたらすには不十分であることを証明します。
しかし、彼は敢然とよみがえられました！

　もう一度、ペテロが語っていることを見ましょう。「そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。」、ノアの箱舟はその中に入っているノアたち家族８人を洪水から、すなわち、神のさばきから救いました。ノアの箱舟はノアの時代の人々に「救いの必要性」と、救いをいただくためには「神のあわれみが必要」であることを教えたのです。神が備えられたこの箱舟は彼らにとって、罪のさばきから逃れることのできる「唯一の希望」でした。しかし、その希望も完全なものではありませんでした。ノアの箱舟は、その当時の人々だけしか救うことができませんでした。しかし、今ここに、時代を越えて、地域を越えて、キリストを信じるすべての人に救いを与えることのできる「完全な箱舟」、すなわち、主イエス・キリストによる救いをペテロは証するのです。神の救いに変わりはありません。また、神が人々を救う方法も変わりません。それは行ないではなく信仰によるのだと教えています。私たちがこの「完全な箱舟」に入るにはノアの時代の人々と同じように、神に対する自分自身の罪を悔い改めて神を信じること、すなわち、神に従う決心をすることが必要なのです。

　このように、罪の赦しをいただくためには聖霊のバプテスマを受けることが絶対条件であることが分かりました。しかしイエスは大命令としてこのように教えています。マタイ２８：１９，２０「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。」と、水のバプテスマを命じています。また、初代教会においても、実際に水のバプテスマを授けていました。それが救いでないのなら一体何のためでしょう？
コロサイ２：１２－１４を見ましょう。「あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。13 あなたがたは罪によって、また肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようにあなたがたを、キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦し、14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。」。
水のバプテスマは信じ救われた人の心に起こったことを明らかにする行為なのです。
●「キリストとともに葬られた」とは、神に逆らい自分勝手に、自分中心に生きてきた罪人の自分が、あのキリストの十字架にいっしょに掛かって死んだことを意味します。「水にとっぷりと浸かる」ことは「死」を表わします。
●「キリストとともによみがえらされた」とは、キリストが死よりよみがえったように、新しく生まれ変わったことを意味します。すなわち、「神を第一」として、言い換えれば「神に喜ばれることを生きがいにして生きる」のです。新しい自分へと生まれ変わったこと、その生まれ変わり、よみがえりを表

わすのが「その水から上がってくること」なのです。
　このように水のバプテスマは、神によって救っていただいたことを公にする証です。

バプテスマに関する二つ目の説明を見てゆきましょう。
２）正しい良心への神への誓い＝肯定的説明
　バプテスマは神への誓いのときです。「正しい良心」とあるのは「神への」との関連から、神の前に正しく忠実に歩んで行こうとするその「正しい良心」を維持するという誓いです。この「誓い」ということばは、「質問する、尋ねる、切に求める」という意味です。バークレーはこのように説明しています。「ギリシャ語では、これは商業用語であり法律用語である。あらゆる商業上の契約では、その契約を合法的、義務的とする特定の問答様式があった。質問は『この契約の条項を受け入れるか、これを必ず守るか』というもので、答えは証人の前で『諾』というものであった。この問答様式がなければ契約は有効とはならなかった。要するにペテロは、バプテスマにおいて神は異教から直接改宗した人に対して、『わたしの奉仕の条項を受け入れるか』と尋ねておられるといっているのである。また、バプテスマを受ける行為の中で、その人は『はい』と答えるのだというのである。私たちはサクラメントということばを用いている。それはラテン語のサクラメントウムということばから来ている。そのラテン語は軍隊に入るときに兵士が忠誠を誓うことを意味している。」
　初代教会においては、バプテスマのときに質問や誓いをしました。それは「主に対して忠実に従うことを決心し、そのように生きたい、生きている」ことの証です。だから、「バプテスマを受ける」ことも主の命令に対する従順の証なのです。

Ｂ．偉大な主　　２２節
２２節「キリストは天に上り、御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。」
１）イエスはすべての主である
　「天に上り」とはイエスが昇天された後のことです。「御使いたち、および、もろもろの権威と権力を従えて」、これは悪霊のことですが、コロサイ２：１５を見ましょう。「神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。」とあります。「捕虜」とは「悪い天使たち」です。悪霊、サタンの手下たちです。この神の敵に対してイエスは敢然と勝利を治められました。彼らは征服され、捕らえられ、鎖につながれ、自由を奪われた敗北者として行進する者たちです。このサタンの仲間たちを新約聖書では、「悪」といいます。みことばを見ましょう。
Ｉ コリント１５：２４「それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。」
エペソ６：１２「私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」
コロサイ１：１６「なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。」

２）イエスは至高のお方である
　「神の右の座におられます」とは「名誉と権威の座におられる」ということです。この最も高いところに着いておられるイエスの働きは、
（１）弁護＝Ｉ ヨハネ２：１「私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。」
（２）とりなし＝ローマ８：３４「罪に定めようとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてくださるのです。」　　ヘブル７：２５「したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。」

私たちの主は＝
私の身代わりとなって死んでくださいました。
敢然と死からよみがえられました。

私たちの敵であるサタンや悪霊たちに勝利されました。
私たちにはどうすることもできなかった死や罪のさばきに勝利されました。
私たちが罪を犯すときはそれを弁護してくださいます。
私たちのために祈り続けていてくださいます。

ゆえに、私たちには希望があるのです。クリスチャンは問題の中にあっても希望をもつ者なのです。